

<p>本校の実態</p> <p>小規模校の特徴を生かし、きめ細やかな教育活動を行っている。落ち着いた中で授業が展開され、生徒の学習への意欲が育成されている。地域は学校に対して協力的である。</p>	<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力に富む生徒を育てる ・実行力のある生徒を育てる ・情操豊かな生徒を育てる 	<p>育てたい生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習、行事、部活動に意欲をもってとりくむ生徒 ・思いやりある行動ができる生徒 ・未来に向かって希望をもって進める生徒
---	---	---

<p>学校経営方針（学力向上にかかわる校長の方策 要点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の指導では、生徒が自ら学び自ら考えることのできる教育計画を立てていく。また、指導方法についての創意工夫や改善を図るとともに、個々の生徒の能力に即した指導方法の開発を図る。 ・新学習指導要領による教育活動を見据え、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育み、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指していく。 ・体力・運動能力向上に関わる取組の充実を図る

<p>各教科の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的、自主的な学習態度の育成 ・基礎的・基本的な学習の充実 ・体験学習、情報教育の充実 ・読書力、漢字力、計算力の充実 	<p>本校における「確かな学力」</p> <p>○学習指導要領の各内容が理解できること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な言語能力を身に付けようとする力 ・資料を読み取り表現する力 ・数の概念、計算力、数学的推論、論理的思考力 ・現象を科学的に考える力 ・目的や場面に応じて話したり聞いたり伝える能力（コミュニケーション能力） ・思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の展開を行う。 <p>○特に総合的な学習の時間では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな課題を探求する力 ・課題をまとめる力 ・自分の考えを発表し、自己を表現できる力 <p>○学ぶ意欲を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおたの子どもポスターにある「学びの場」を意識し、教育活動に臨む。 	<p>道徳教育の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他を尊重し互いに敬愛する態度 ・社会連帯の精神、奉仕する心 ・正しい判断に基づき行動、人権を大切にすする姿勢
<p>総合的な学習の時間の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さの発見 ・自分を生かすことができる能力 ・情報を収集、活用する能力 ・まとめる、表現する力 	<p>特別活動の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめのない豊かな心 ・責任感と自立する態度 ・自発的、自主的活動 ・社会の一員であるという自覚 	<p>生活指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種調査等を活用し問題点に気付く ・問題行動を見逃さない姿勢 ・相互理解と協調的な人間関係 ・家庭、地域社会、関係諸機関との連携 ・規範意識、安全意識の育成



本校の授業改善に向けた視点

各教科・領域、学校・学年行事等におけるカリキュラムマネジメント

<p>指導内容・方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのコミュニケーション能力向上のためにミニホワイトボードを活用し、クラス・学年を越えて考え等共有する。 ・読書学習司書の配置に伴い、読書力・探究心を養い、思考力・判断力・表現力を向上させる。 ・3年間を見通した学習指導をする。 ・補充教室を実施し、学習に対する個別指導を充実する。 	<p>教育課程編成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫による9年間を見通した教育活動を行う。 ・安全指導、ヘルスプロモーション（健康増進教育）の充実を図る。 ・新学習指導要領の内容を理解し、見方や考え方の育成にかかる教育課程編成に向け準備を進める。 	<p>校内研修・研究の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターや視聴覚機材等の教育機器を活用する。 ・ICT環境に合わせた授業を提案する研究を実践する。 ・学校、学年、学級の連携による一貫した指導体制を目指す。 ・新学習指導要領の内容及び解説の理解を図る 	<p>評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者に明確な評価、評価基準の作成および検証（発達段階に応じた目標設定）の情報を提供する。 ・新学習指導要領の考え方に基づく評価の工夫 ・信頼される評価 ・ICT活用の評価の工夫 	<p>家庭や地域社会との連携の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、学年通信等を活用し情報を計画的に提供する。 ・授業公開、授業参観等を利用し、家庭や地域と連携した教育活動を連携する。 ・学校支援地域本部（SSI）の協力を得て地域と連携した幅広い学習活動を行う。
---	---	--	--	--

令和2年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第3学年は日頃から国語に関する話題や題材の工夫をしてきたことで、国語に対する興味関心も高まり、各観点の達成率が高まった。
- ・第2学年は読書習慣が身についてきており、国語に対する興味関心は高まりつつある。また、日頃の学習で要点を聞き取ってメモを取る指導を行ったことで「話す・聞く」観点は前年度よりも達成率が高まった。

(2) 課題

- ・1学年はどの観点も目標値を上回っているが、「言語的な知識・理解・技能」の観点到やや伸び悩みが見られる。
- ・2学年は自分の意見を具体的に書く学習に取り組んでいるが、「内容を正確に捉え、伝えたい事柄を明確にして書く力」に課題が見られる。また、漢字の学習に力を入れて取り組んではいるが、自分に合った学習方法が見つけきれず、「言語的な知識・理解・技能」の観点の達成率が前年度と比較して下回っている。
- ・3学年は「話す・聞く」「読む」観点はある程度身につけているが、共通して「内容を正確に読み取る、聞き取る力」に課題が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	上回っている。		
第2学年	前年度より 2.6ポイント 下回っている	下回っている。 (第1学年時)	
第3学年	前年度より 1.5ポイント 上回っている	前年度より 1.0ポイント 上回っている (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

関心・意欲・ 態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての 知識・理解・技 能
全体的に区の目標値を上回っている。話の内容を正確に聞き取る点を伸ばすと、さらによくなると考えられる。	区の目標値を大きく上回っている。話し方の工夫は理解できているが、内容を正確に聞き取る点に課題が見られる。	区の目標値を大きく上回っている。特に、自分の立場を明確にして書くことについて優れている。	区の目標値を大きく上回っている。要旨を捉える活動は特に優れている。	区の目標値を上回っているが、小学校の既習漢字の読み・書きに課題が見られる。

② 第2学年

関心・意欲・ 態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての 知識・理解・技 能
何事にも意欲を持って伝えたい事柄を明確に探す活動ができなかった。指定された文字数で文章を書く点を伸ばすと、さらに良くなると考えられる。	区の目標値を上回っている。授業で意見を交換させたり、適宜メモを取ったりする活動が効果的だったと考えられる。	自分の意見を述べる活動は行っているが、伝えたい事柄を明確にして書いたり、筆者の主張をまとめたりすることに課題が見られる。	単元ごとに作者の意図を読み取る活動を行った成果が出ているが、登場人物の心情や情景を的確に捉えることに課題が見られる。	中学校の新出漢字は身につけつつあるが、小学校の既習漢字の習得が不十分であると考えられる。

③ 第3学年

関心・意欲・ 態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての 知識・理解・技 能
全項目で、区の目標値を上回っている。聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる点を伸ばすと、さらに良くなると考えられる。	区の目標値は上回っているが、前年度より下回っている。授業での話し合い活動ができなかったのが要因にひとつとも考えられる。	単元ごとに、感想や自分の考え等を、体験も含めて書かせた。日々の積み重ねが功を奏し、前年度より上回っている。	区の目標値は上回っているが、文章の構成や展開、内容をとらえて、具体的な事例に当てはまることの理解度が少し前年度より下回っている。	前年度より、最も上回った。毎回の授業でこの項目内容に触れるようにした結果、漢字等の興味関心が高まり、学習方法も身につけてきたと考えられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・ 態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての 知識・理解・技 能
自他の意見を聞き合い、適宜メモを取らせることで考えの多様性を理解させ、意欲関心を高めさせる。	話の要点やキーワードを正確に聞き取ってメモを取る活動を取り入れ、内容を意識させる。	文章の内容を正確に捉え、目的や意図に応じて構成を工夫し、相手に分かりやすい文章を書けるように指導していく。	前後の文章から情景や心情を読み取ったり、文章の要旨を把握したりできるように指導していく。	既習漢字の復習とともに、基本的な文法の知識を身につけるように指導していく。

(2) 第2学年

関心・意欲・ 態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての 知識・理解・技 能
引き続き、自他の考えを発表するとともに、指定された文字数で文章を書く活動を行い、国語の意欲関心を高めるように指導していく。	引き続き、話の要点やキーワードを聞き取ることを意識させ、思考力、判断力、表現力を高められるように指導していく。	伝えたい事実や事柄を明確にして書くことを意識させ、筆者の主張をまとめる活動を取り入れていく。	引き続き、構成や展開を正確に捉え、文章の要旨を把握できるように指導していく。	新出漢字に既習漢字を織り交ぜて、文や文章の中で使えたり、日常生活で使いこなせるようにしたり指導していく。

(3) 第3学年

関心・意欲・ 態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての 知識・理解・技 能
引き続き、興味・関心を高め、意欲を持って国語に取り組んでいけるように指導していく。	本題は何かを考えながら聞き取ることと、内容を理解してもらうための表現と話し方についての指導していく。	自分の経験を踏まえて目的や意図に応じた表現になっているかを確認かめて書けるように指導していく。	授業で培った読み取る力を多様な文章でも生かして読むように指導していく。	敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを使えるように指導していく。

令和2年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・2年生、3年生ともに全領域について着実にポイントをあげている。

(2) 課題

- ・1年生、2年生共に、複数のグラフ資料などから分かることを読み取り、自分の言葉で記述をし、表現する問いについて、苦手とする課題が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	上回っている		
第2学年	前年度より 6.3ポイント 下回っている	下回っている。 (第1学年時)	
第3学年	前年度より 0.3ポイント 下回っている。	前年度より 5.8ポイント 上回っている (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
全体的に、他の観点よりも正答率が低くなっているため、関心をもって学習に取り組むことができるようにする必要が有る。	記述で答える問いに対して、具体的な内容まで踏み込んだ説明ができていない所が見られる。	単純な資料の読み取りはできるが、複数の資料からの読み取りをする問いに対して、課題が見られる。	基礎的知識の理解は比較的高い傾向が見られる。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
区平均や全国平均に対して正答率が下回っている。関心をもって学習に取り組むことができるようにする必要がある。	記述に対する無答率が他の問いと比べて高いと思われる。	単純な資料の読み取りはできるが、複数の資料からの読み取りをする問いに対して、課題が見られる。	基礎的知識の理解は比較的高い傾向が見られる。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地図活用の問題の正答率が低かった。	身近な地域と他の地域との結びつきについての問題の正答率が低かった。	資料活用について課題を残している。	知識・理解については比較的高い達成度である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
授業の導入や用語の解説の際、身近なものの例えを使うなど、生徒が内容に対してイメージし、関心をもちやすくなるように工夫をする。	発問に対して、より具体的に説明ができるように促していく。	複数の資料を合わせて特徴や共通点を捉える学習の機会を増やす。	ワークなどを活用し、復習を徹底させることで、基礎基本の定着を引き続き行う。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
授業の導入や用語の解説の際、身近なものの例えを使うなど、生徒が内容に対してイメージし、関心をもちやすくなるように工夫をする。	授業の内容や単元のまとめなどを自分で表現する機会を増やすことで、自分の力で記述の練習をする機会を増やす。	複数の資料を合わせて特徴や共通点を捉える学習の機会を増やす。	ワークなどを活用し、復習を徹底させることで、基礎基本の定着を引き続き行う。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
I C T活用など社会科に対する生徒の関心を高める工夫をする。	文章理解力を高めるため、生徒に説明させる場面を増やしていく。	複数の資料を活用した学習に取り組ませる。	今後もワークの活用し基礎力の定着を図る。

令和2年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 2年「平均値についての説明の正誤を判断する問題」では目標値を大きく上回った。平均を求め、それを活用する力が身に付いている。
- ・ 2年 分数を含む問題では目標値を上回り、問題集や授業内の復習での成果が表れている。
- ・ 3年 「確率」を含む問題では目標値を大きく上回っている。

(2) 課題

- ・ 2年「比例・反比例」の問題では、正答率が目標値を下回っている問題がある。関数分野では既習事項をしっかり復習していく必要がある。
- ・ 2年3年「図形」の問題では、共に正答率が目標値を下回っている問題がある。図形の知識を確実に定着させていく工夫が必要である。
- ・ 3年 分野を横断する問題での誤答がある。様々な解き方で問題が解けるよう、働きかけていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	上回っている。		
第2学年	前年度より 1. 2ポイント 下回っている	上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	前年度より 0. 2 下回っている	前年度より 3. 9ポイント 上回っている (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
平均の考え方を使得って全体を予測する問題では目標値を下回っている。	選び方が何通りあるかを求める図において誤りを指摘する問題で、目標値を下回っている。	小数の計算や速さを求める問題、平均を求める問題では、目標値を下回っている。	円の面積を求める問題や、合同な四角形を選ぶ問題では、目標値を下回っている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
比例の考え方を使得って解決する問題で、目標値を下回っている。	比例の考え方を利用し必要な情報を選ぶ問題で目標値を下回っている。	負の分数と負の整数を比較する問題では目標値を下回っている。	既習分野はおおむね目標値を上回っているが、回転体の見取り図を選ぶ問題では下回っている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
座標軸上で三角形の面積を二等分する問題で目標値を下回っている。	連立方程式を読み取り、 x, y が表すものを指摘する問題で目標値を下回っている。	ほとんどの項目でおおむね目標値を上回っている。	平行四辺形になるための条件について理解できていない生徒が多い。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
既習事項を活用しながら問題に取り組めるよう、復習を取り入れながら指導をしていく。	記述問題や、誤りの指摘などをより多く授業に取り入れ、説明し分析する力を伸ばしていく。	様々な単元で小数・分数、速さ、割合、平均を扱う際には復習を取り入れながら丁寧に進めていく。	図形分野では教具や教材を工夫しながら、公式や図形の性質などを丁寧に説明していく。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
引き続き無答の割合が高いので、記述問題において自分の考えを持ち表現する力を養うようにする。	情報を正しく読み取り、選択する問題での誤答が多い。授業内でも文章問題を取り入れ情報を読み取る力を養う。	関数分野の単元では、その都度既習事項を確認し、表・式・グラフそれぞれの表し方を定着させていく。	図形分野では教具や教材を工夫しながら、公式や図形の性質などを丁寧に説明していく。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
一定数の無回答生徒がいる。 記述問題において自分の考えを持ち表現する力を養う。	式を立てるだけではなく、その式の意味を考えるような問題を取り扱っていく。	基礎的基本的な計算技能向上のため、今後も小テストなどを継続していく。	図形分野では、定理や定義などを再復習しながら、丁寧に説明していく。

令和2年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第3学年では、達成率を引き上げることができた。

(2) 課題

- ・第2学年では、各観点・達成率とも前年より下回った。
- ・理科では単元により得意不得意があらわれることも多々ある。第2学年では、「植物の分類」「水溶液の性質」「光の性質」「音の性質」で目標値を下回っている。他の単元でかなり上回っているところもあるので、単元の取り組み・定着について工夫を加えていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	平成元年度結果	平成30年度結果
第1学年	上回っている	/	/
第2学年	前年度より 2.7ポイント 下回っている	下回っている (第1学年時)	/
第3学年	前年度より 2.9ポイント 上回っている	前年度より 2ポイント 下回っている (第2学年時)	上回っている (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
前年度より 0.9ポイント 下回っている。	前年度より 0.4ポイント 下回っている。	前年度より 8.9ポイント 下回っている。	前年度より 4.4ポイント 下回っている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
前年度より 0.7 ポイント下回っているが、目標値を上回っている。	前年度より 3.4 ポイント下回っているが、目標値を上回っている。	前年度より 4.0 ポイント下回っているが、目標値を上回っている。	前年度を 8.8 ポイント上回っているが、目標値を上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
学習の取りかかりとして、その課題が身近な問題であることを意識づけられるようにする。	科学的な思考を要求されるような課題を設定し、生徒間で討論させる。	顕微鏡やガスバーナーなどの実験・観察器具を一人ひとりが正しく、安全に使えるようにする。	ノートの点検や実験・観察のレポートの確認・単元ごとの問題演習を実施する。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
身近な例を取り上げ、その中に潜む科学的な事象を課題とし、興味・関心を引き出す。苦手意識も生じているようなので、楽しく学べるよう、授業の工夫をする。	科学的な思考を要求されるような課題を設定し、生徒間で討論させる。思考・判断を正確にするために確かな知識・理解を定着させる。	一人ひとりが実験・観察できるよう、可能な限り個別化する。実験・観察の基本事項に関して、個別に定着させるため、実技試験等を行う。	ノートの点検や実験・観察のレポートの確認・単元ごとの問題演習を実施する。小単元ごとに定着度チェックをし、知識・理解を高める。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
身近な例を取り上げ、その中に潜む科学的な事象を課題とし、興味・関心を引き出す。	科学的な思考を要求されるような課題を設定し、生徒間で討論させる。	一人ひとりが実験・観察できるよう、可能な限り個別化する。各実験・観察の際に、技能の面でポイントになることをおさえる。	ノートの点検や実験・観察のレポートの確認・単元ごとの問題演習を実施する。

令和2年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・鑑賞の授業においては意欲が高まったと感じる。
- ・表現の工夫について考えさせる活動を増やしたことで、生徒が思いをもち歌唱することができた。
- ・生徒同士わからない部分を教え合うことで、協力し自主的に活動に参加する生徒が増えた。

(2) 課題

- ・男子生徒の学習に対する意欲の二極化がみられた。
- ・器楽（リコーダー）への意欲が、歌唱、鑑賞に比べて低い。
- ・自信を持って歌うことができている生徒があまり多くないので、増やしていきたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年			
第2学年		(第1学年時)	
第3学年		(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
授業規律が確立されてきて落ち着いて学習できる環境になった。歌うことへの意欲が高い。	感じ取ったことや、考えたことを歌唱に表現できる生徒が例年に比べ多い。	真面目に取り組むが、音とりが苦手な生徒が多い。発声に関しては前向きに取り組む生徒が多い。	聴き取ったことを素直に自分の言葉で表すことができた。

② 第2学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
授業規律が確立されているが、歌唱への意欲の低下が見られる。 発言はよくする。	感じ取ることはできるが、自ら工夫する姿勢は弱い。また言語化する力が弱い。	音を取ることはできるが、体の使い方、口の開け方はもう少し努力が必要。	聴き取ったことを、根拠をもって発表できる生徒は少ない。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
何事にも真面目に取り組んでいる。高い意欲で活動に参加する生徒が多い。	感じ取ることや、言葉にすることはできるが、音楽表現に表すことは苦手な生徒が多い。	音楽表現について、お互いの声を聴き合い表現を工夫する姿勢が見られる。	聴く力を多くの生徒が備えている。もう少し根拠を持って自分の意見を発表できるとさらによい。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
高い意欲で、前向きに取り組む生徒が多いため、表現することに自信を持てるような活動を継続して取り組ませる。	イメージさせる活動や、言語化させる活動を通し、表現を振り返らせることで、工夫することにつなげていく。	音とりの際に個別の聴き取りを行い、個別にアドバイスする。よりよい発声を定着させるための基礎的な発声練習を通して段階的に声づくりを行っていく。	高い意欲で学習できる題材を設定し、生徒が感じたり理解を深めたりすることを実感できるような授業を展開する。 またICTを活用し、より意欲的に学習できるよう教材研究に努める。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
歌唱への意欲の低下が見られるため、褒めることや自信を持たせられる活動を増やしている。	イメージさせる活動や、言語化させる活動を通し、表現を振り返らせることで、工夫することにつなげていく。	音とりの際に個別の聴き取りを行い、発声に関して個別にアドバイスする。発声の基礎を定着させるための発声練習に力を入れ段階的に声づくりを行っていく	聴き取らせる内容を少し易しくし、自信を持って発表できるような教材を選択する。高い意欲で取り組めるよう教材研究に努める。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
さまざまな活動を通して、自信を持って表現したり発言したりできるよう、少人数での活動から人数を増やしていく経験を多く積みませ生徒の自信へとつなげていく。	音楽表現において簡単に創意工夫できる教材を設定する。また生徒自身が工夫したことで得られる効果を実感できる経験を積みさせる活動を取り入れる。	教師が模範を示したり、生徒同士で見出し合ったり教えあったりする、主体的な活動を通して、歌唱表現の技能を高めていく。	聴きとったことを発表したり、ワークシートに書いたりする際に、根拠を持って発表できるようアドバイスをしていく。発表の機会を増やし自信を持たせる。

令和2年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・東京国立博物館の協力で、生活の中に生きる美術と日本美術のよさや美しさを感じとる伝統的な絵画「松林図屏風」の鑑賞授業から、生徒の意欲と鑑賞の能力が高められた。
- ・休校中の課題では各学年とも主体的に鑑賞の課題に取り組み、授業においても WEB や映像、外部機関を活用して、よさや美しさを感じ取る鑑賞授業に意欲を持って取り組んでいた。
- ・1学年では、休校中の課題を活用して色彩の学習をより広く展開し、理解が深まった。
- ・2学年では、休校中の課題でNHKの美術番組を視聴してデザインの鑑賞が深められた。
- ・3学年では、ウェブや体験による鑑賞活動から多様な文化のよさや美しさを味わえた。

(2) 課題

- ・休校を理由とした学習の積み残しが出ないように学習の効率化を図ることが必要である。
- ・来年度の新学習指導要領の実施に向けて、評価規準や年間指導計画の見直しが必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年			
第2学年		(第1学年時)	
第3学年		(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
人数が多く指示が通りにくかったため、教室後方の生徒に対しての指示や声かけを改善した後、授業準備の意欲や制作への取り組み方などが変化し、意欲関心が高まった。	題材の理解度が例年より高いので、授業のねらいに沿って、個々の心情からテーマを設定場面では、個々の発想が豊かに発揮されている。	発想構想に基づいた材料の選択や表現方法が意欲を持って工夫されているので、形や色彩の工夫、材料の扱い、絵の具を使った表現方法の工夫ができています。	休校中の課題を活用したり、ICT機器を活用した作品鑑賞を通して、よさや美しさを感じ取る視点を広げたり深めたりすることが出来ている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
休校明けに制作時間が集中していたにも関わらず、意欲を持って題材に取り組んでいた。表現・鑑賞ともに楽しんで学習に取り組んでいる。	ICT機器を活用したピクトグラム相互鑑賞を通して、自分の作品の発想構想の力を高めることができている。	自分のテーマに合った表現方法を各自で工夫して技能を発揮出来ていた。基礎的な技能を発揮する場面でも意欲を持っていい取り組みをしている。	休校中の課題で活用したNHKの美術番組の映像や外部機関を活用した鑑賞を通して、意見交換会に変わる鑑賞授業ができたので、鑑賞の能力が高められている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
感染症対策により、1・2年次の学習方法とは異なる表現や鑑賞の授業が展開されているが、最終学年としての意識を持って、自ら意欲関心態度を高めている。	休校中の課題が活用できたので、自分の思いを反映する作品のテーマや題材の発想構想を深めることができている。	1・2年での既習事項を発展させて創造的な技能を発揮し、見通しを持って制作できている。	話し合い活動はできないが、他の生徒の意見のまとめを活用して、自分なりの感性を生かして日本美術や現代美術のよさや美しさを味わうことが出来ている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
一学級の人数が多 いので、よりていね いな指示の言葉や 指導方法を心がけ て、楽しく表現や鑑 賞の活動に取り組 ませる。	造形的な視点や思考 を意識させて、発想 や構想を豊かに発揮 できる題材を設定す る。	基礎的な技能を確実 に習得させると共に 小学校図画工作での 学びを生かして、自 信を持って表現の活 動に取り組ませる。	相互鑑賞の方法を工 夫して、よさや美し さを発見する見方を 広げる。表現にも展 開して、造形的な視 点や思考の定着を図 る。

（2）第2学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
多様な見方や考え 方による成果互い に共有し、自己肯定 感を高める事で、自 信を持って学習に 取り組めるように する。	今までに経験した ことのない題材を 設定して、新鮮な気 持ちで発想や構想 に取り組ませる。豊 かな発想力を育む。	各自で制作の見通し を持ち、創造的な技 能が発揮出来るよう に、学習のねらいを わかりやすく明確に した授業展開を心が ける。	話し合い活動に変え て、ICT 機器を活用 したり外部機関を活 用したりして、美術 の見方や考え方を広 げる授業を工夫す る。

（3）第3学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
義務教育最後の美 術教科として、既習 事項を活用して自 分なりに最高の表 現が出来るように 個別指導を充実さ せる。達成感や自己 肯定感を育くめる ような題材を設定 する。	主体的に発想や構 想の能力を発揮出 来る授業を展開す る。表現において自 らの主題を明確に させたり、構図の工 夫や材料の選択を させたりして、発想 や構想の力を発揮 させる。	小学校図画工作や 中学校2年間の学 びを生かして、意図 に合った創造的な 技能を発揮させる。 完成までの見通し を持たせることで、 主体的に表現の活 動に取り組ませる。	日本文化や多様な 美術表現の普遍的 な価値を自分なり の感覚で捉えさせ る。他の生徒の意見 も生かして、よさや 美しさを主体的に 味わい、見方を広げ 深める鑑賞の能力 を高める。

令和2年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎的な運動課題からやりなおすことにより、運動への意欲の向上を図ることができた。
- ・一人ひとりの課題に合った取り組みができる学習カードを活用し、課題を解決させることができた。
- ・「走る」技能が全ての運動の基礎となることに重点を置き、指導することができた。

(2) 課題

- ・幼少時からの運動経験が少なく、技能が低い水準となっている。
- ・ICT機器を活用した、運動観察を通じた課題発見学習の展開。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年			
第2学年		(第1学年時)	
第3学年		(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
授業規律の確立・集団行動の徹底を通じ、安全に学習できる環境が整ってきた。	自らの課題を発見しようとする姿勢が弱い。	50m走及び長距離走のタイムは例年よりも遅い。授業内での運動量は多くなってきている。	基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について整理できたが、自分の言葉で説明できる生徒が少ない。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
安全に留意しながら取り組む姿勢や、互いに声を掛け合い、主体的に運動に取り組む生徒が増えてきた。	自らの課題を発見し、解決しようとするが、自分に合った練習方法を選んだり、工夫したりする生徒が多くない。	個々の技能の向上に取り組んでいるが、集団の中で活かせる技能までは至っていない。運動量は確保できている。	基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について整理することができた。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
安全に留意しながら取り組む姿勢や、互いに声を掛け合い、主体的に運動に取り組む生徒が多い。	自らの課題を発見し、解決しようとする生徒が増えてきた。提示された練習方法から課題解決に向けたものを選ぶことができるが、工夫する生徒が少ない。	運動量を確保しながら、個々の技能の向上に取り組んでいるが、集団技能にも繋がっていない。	基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について整理することができた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
運動や健康について興味・関心のある生徒が少ないため、安全に留意しながら、興味関心をかき立てる指導を継続していく。	課題を端的に、明確に提示する。また、練習の内容や技能向上に繋がるポイントを分かりやすく説明しながら授業を展開する。	技能の向上を根底から支える、基礎体力を向上させるために、運動量を確実に確保していく。模範を示し、体の動きをイメージしやすいようにする。	I C T機器を活用しながら、より高い意欲で学び、知識やポイントを理解・整理できるようにしていく。学習カードも継続して活用していく。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
運動や健康について興味・関心のある生徒が多いため、安全第一に取り組むことを継続して取り組ませる。	指示を少なくし、練習の内容を生徒同士が工夫しやすいようにアドバイスを出していく。さらに、練習方法を提示し、生徒が選択して取り組むことができるようにする。	運動量を確保し、体力の向上を図りながら、基本的な技能に加え、発展的な技能にも挑戦していく。個人の技能は、全体に向けて発表・披露できるようにしていく。	I C T機器を活用しながら、より高い意欲で学び、知識やポイントを理解・整理できるようにしていく。学習カードも継続して活用していく。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
生涯の豊かなスポーツライフの設計に繋がるように、身近な運動や健康な生活を実践するための姿勢を育む授業展開を行う。	練習の内容を生徒同士が考え工夫しやすいようにアドバイスを出していく。	より高い技能を身につけられるよう、模範を示し、細かい技能指導を適宜行なう。I C T機器を活用しながら、模範との比較を行っていく。	運動や健康に関する知識が将来への関連性を意識させた学習をさせる。

令和2年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICT 機器の活用により学習効果を高めることが出来た。
- ・生活や技術に対するの関心を持ち意欲的な取り組みが見られる。
- ・基本的な生活能力を実践的に活かせるように身近な生活と結びつけることができた。
- ・製作や実習に際し、作業手順をイメージすることや基本的な技能が身についた。
- ・ノートの取り方を工夫し、学習のまとめを行える習慣が定着した。

(2) 課題

- ・製作や実習を通して、自ら調べ、確認することで生活を創造する姿勢を育成する。
- ・授業ごとに製作や実習の記録を残すことで、生徒の自主性や主体性をより高める。
- ・製作の際は、作業工程別に進度を可視化することで効率を上げる。
- ・生活に必要な衣食住及び家族や家庭生活に関する基礎的な知識の習得。
- ・学習ノートやプリントを個別に確認することで知識・理解の定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年			
第2学年		(第1学年時)	
第3学年		(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
小学校の学習を振り返り、3年間の見直しをもって学習に取り組もうとしている。班活動を多くして、興味関心を引き出すことができた。	中学生の食生活と栄養について課題を見つけ、その解決を目指して工夫している。そして工夫した道具を考えさせることができた。	製作に必要な基本的な技能を身に付けて、安全に作業することができる。作品の製作時には必要に応じて作業ができています。	衣服の着用、選択、手入れについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。木の性質を知るのに、体験的な授業展開を通して理解を深めさせることができた。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	衣生活や住生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について工夫している。そして工夫した道具を考えさせることができた。	食品の選び方に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。作品の製作時には必要に応じて作業ができています。	食品の栄養的特質について理解し、食品群や食品群別摂取量の目安について理解している。電気の性質を知るのに、体験的な授業展開を通して理解を深めさせることができた。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自分の成長や生活は、家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気付いている。	自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考え工夫している。PCを通して工夫した考えをさせることができた。	幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。PCの操作時には必要に応じて作業ができています。	消費生活と環境とのかかわりについて理解し、基本的な知識を身に付けている。PCの体験的な授業展開を通して理解を深めさせることができた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
衣服の着用、選択、手入れについて関心をもって学習活動に取り組み、衣生活をよりよくしようとする。班活動の重視を考えさせる。	衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修について考え、工夫できるようにする。工具の正しい使い方を育む。	衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の洗濯ができるようにする。製作の際は、立体をイメージしながら作業する。	地域の食文化について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基本的な知識を身に付ける。木材の性質を育む。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自分の食生活に関心をもち、健康によい食習慣について考え、日常生活で実践する。	1日分の献立について課題を見つけ、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせができるようにする。	製作に必要な技術を身に付け、作業効率も意識しながら、安全に布を用いた物の製作をできるようにする。電気知識を重視し作業をさせる	安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解する。電気を通して生活意識を高める。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、家族との生活をよりよくするための行動をする。PC操作の能力を育成する。	環境に配慮した消費生活について課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造する。	幼児の遊びや幼児の発達と家族との関わりなどについて理解を深める。PC操作を通してワークに取り組む	中学生に関わりの深い販売方法の特徴について理解し、購入に関する知識を身に付ける。PC操作を通してプログラミングを育む。

令和2年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・領域別、観点別ともに目標値を上回っており、良好な結果といえる。
- ・表現の能力の向上を目指し、作文指導・文法指導に取り組み、良好な結果が得られた。
- ・単語の発音と綴りを結びつける指導として、1年生の授業においてフォニックスを系統的に指導した成果が見られる。

(2) 課題

- ・2年生、3年生ともに「場面に応じて書く英作文の力」について授業改善の必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	/	/	/
第2学年	上回っている。	(第1学年時) /	/
第3学年	前年度より 0.2ポイント 下回っている。	上回っている。 (第2学年時)	(第1学年時) /

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
授業内で自ら発言したり、ペア活動で積極的に参加したりすることができている。	日常の話題について、自ら質問したり、相手の質問に答えたりするやりとりができている。	英問英答でのやりとりを通して、短い文章から必要な情報を読み取ることができている。	基本文の定着とともに英語の音声や文法の特徴が徐々に理解できている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
高い数値を示しており、良好である。	目標値を上回っており、良好である。表現活動に力を入れた成果と考えられる。	目標値を上回っている。文章の内容理解 Q&A やリスニングに力を入れた成果と考えられる。	目標値を上回っている。語彙・語法に関して、類語と関連づけ、語彙力を伸ばす指導を行う。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
高い数値を示しており、良好である。	目標値を上回っている。表現活動に力を入れ、基本文の使用機会を増やした成果と考えられる。	目標値を上回っている。内容理解やリスニングに力を入れ、Q&A の練習を行った成果と考えられる。	目標値を上回っている。語彙・語法に関して、類語と関連づけ、語彙力を伸ばす指導を行う。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
視覚教材を活用し、身近な場面に親しませることで関心をもたせ、生徒が英語で会話する機会を増やす。	対話練習をしっかり行い、基本文の定着を図る。また、基本文を活用し、自分の考えを伝える活動を取り入れ、まとまりのある簡単な内容を話せるようにする。	目標文の使用場면을教科書本文で確認するとともに、リスニングや読解問題では、英問英答の練習を継続して指導する。	英語を正しく発音することができるように、音読・暗唱の機会を多く設ける。英語の特質が理解できるように、基本文を繰り返し練習し、定着をはかる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
視覚教材を活用し、身近な場面に親しませることで関心をもたせ、生徒が英語で会話する機会を増やす。	状況に即し、自分の考えや意見を適切な構文や単語を用いて話したり書いたりする力を伸ばす。英語で自己表現する機会を増やす。	英文を聞き、その内容に関する情報を整理する力や、長文の内容を把握する力を伸ばす。英問英答の練習を継続して指導する。	英語を正しく発音したり、書いたりできるよう、暗唱・暗写の機会を多く設け、基本文の定着につなげる。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
視覚教材を活用し、身近な場面に親しませることで関心をもたせ、生徒が英語で会話する機会を増やす。また単語や文法について多くの関連情報を与え、意欲を高めていく。	状況に即し、自分の考えや意見を適切な構文や単語を用いて話したり書いたりする力を伸ばす。英語で自己表現する機会を増やす。また臨機応変に英語で反応できるよう、活動内容を工夫していく。	まとまりのある英文を聞き、その内容に関する情報を整理する力や、長文読解で必要な情報を引き出したり、内容のあらすじを把握したりする力を伸ばす。	英語を正しく発音したり、書いたりできるよう、暗唱・暗写の機会を多く設け、基本文の定着につなげる。